



台風の接近などアクシデントもあったが、どの班のフェアも賑わいを見せた。

# 都市と地域を結ぶ学びの実践 7つの地域の魅力を 学生の力で発信！

大正大学地域創生学部の2年生による、「地方と都市の共生」をテーマとした地域の魅力発信イベントが行われた。  
文・構成 ● 丸山貴未子 撮影 ● 地域創生学部

9月末から10月の毎週末、大正大学で「地域フェアinすかも」が開催された。「地方と都市の共生」をテーマに、同地域創生学部の2年生たちが、1年次に地域実習で訪れた地域をさまざまな手法で紹介した。後日、その成果報告が行われた。

## 課題は残りつつも、 全力で挑んだ地域フェア

9月30日、10月1日に行われたのは「あなんフェス」と「荻ノ島フェス」。「あなんフェス」は徳島県阿南市の豊かな食を通じて同市を知ってもらおうと、全国9割のシェアを占めるすだちをはじめ、シイタケ、竹ちくわといった地域の特産品、地域実習で学生が「一番おいしい」と感じた地元パン屋の「銀シャリ食パン」などを販売。フェアには1860人が訪れ盛況だ

だったが、「要冷蔵の竹ちくわは持ち帰りに向かず売れ残ってしまった。仕入れる商品の見直しが必要」と課題が上げられた。荻ノ島は新潟県柏崎市高柳町にある環状集落。「荻ノ島フェス」では柏崎に本社を置く製菓会社ブルボンの協力を得た商品を販売。風景画や伝統工芸の和紙など展示も充実させた。広報には地元組織「柏崎ファンクラブ」を活用。アンケートでは来場者1365人のうち8割が「荻ノ島に行ってみたい」と回答。「来年の実習では学生主体のツアーを行いたい」と目標を語った。10月7、8日は「長井水フェア」と「水感祭」(延岡市)という、水をテーマにしたフェア。

「長井水フェア」では水に恵まれた山形県長井市の地域性がわかる展示のほか、地域資源を循環させるレインボープランで作

## フェアまでの流れ

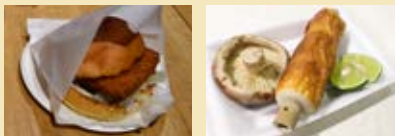


1 学生がセレクトした地域の特産品はよく売れた。2 地域フェアは大正大学3号館と、キャンパス内の鴨台花壇カフェで開催。

## 地域フェアinすかも 3つの見どころ

### 食

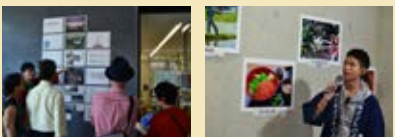
学生のアイデアが光る  
地域食材を使ったメニュー



手軽に食べられる「タコかつバーガー」(左)や、芳ばしい香りの焼き竹ちくわと焼きシイタケなど販売。

### 展示

地域の風土や伝統を  
来場者に伝える



地域の風土や名産品、産業などがわかる展示物を各班で制作。来場者に熱心に地域の良さをアピールした。

### 物産

学生が選び、仕入れた  
地元の特産品を販売



どの商品なら地域性がよく伝わるのか、学生が吟味し選んだ特産品を販売。都内では手に入りにくい商品も!

られた野菜の販売、地酒の試飲を実施。地酒は好評を得たが「事前の広報や商品知識に不足があった」と課題が残った。宮崎県延岡市も五ヶ瀬川が水質日本一となった水のきれいな町だ。フェアではその水のよさから生まれた「鮎やな餅」、「月の塩」など銘菓を販売。学生が考案した延岡発祥のチキン南蛮を使った「延岡ハッピーバーガー」は人気を見せたが、「販売個数が少なかった」と反省点を述べた。10月14、15日は両日雨天だったが、「佐渡縁日」と「もがみ輝工房」が行われた。「佐渡縁日」は新潟県佐渡島の特産「佐渡牛乳」を賢活に使ったベビーカーステラや金山をイメージした大判・小判チョコの販売、名産の竹を使った工作ワークショップ、射的、玉投げも開催。広報にSNSを活用し、来場者400人のうち40〜50人がフェイ

スブックを見て来てくれた」と、事前告知の成果が報告された。「もがみ輝工房」は、森林が80%を占める山形県最上町の木材について知ってもらうことが目標。木製のマグネットやしおりを販売し、木製のフォトフレームを作るワークショップも行ったが、商品が高額なため原価割れでの販売となり、赤字イベントとなったことが反省された。一方「もがみ

町を体感するVR体験は待つ人が出るほどの人気」で「東京と最上町をつなぐきっかけになったのでは」と結んだ。最後に、台風が接近する10月21、22日に行われた「南三陸福勝市場」の成果が報告された。震災という過去ではなく、明るい未来へ向かう宮城県南三陸町を伝えようと展示に力を入れたという。イベント限定の「タコかつバーガー」や「ねぎらいせんべい」

を販売。「目玉商品としてワカメの詰め放題を企画していたが、衛生上の観点から断念」した経緯も紹介された。報告会の最後には、代表の学生が地域実習でお世話になった人や講師たちに感謝の言葉を述べ、聴講していた1年生たちに「自分たちの反省をふまえ、来年頑張っほしい」とエールを送った。地域創生学部のこれからの活躍に期待したい。